



丸太から苦勞して切り出した円盤にお絵かきする子供たち

この「みどりのフェスティバル」は広く地域の方々に楽しみながら気軽に森林とふれあっていただき、森林・林業及び木材利用への関心と理解を深めていただくことを目的に、地元の瀬戸市や環境省中部地方環境事務所など行政機関と森

みどりのフェスティバル'14

の声をあげていました。今後、さらに展示品を充実させ、地域の皆様や児童・生徒の皆様へ情報発信していきたいと考えています。

「名古屋事務所」四月二十九日（昭和の日）に「みどりのフェスティバル'14」を、愛知県瀬戸市にある瀬戸国有林「定光寺自然休養林」において開催しました。

林・林業に関わる関係団体が協力して実施しているもので今年で十回目となりました。

当日は、あいにくの雨模様となりましたが、地元瀬戸市を始め名古屋市などたくさんの方々が約五百人が来訪し、雨に濡れた新緑の鮮やかな自然休養林の中で、丸太切り、火おこし体験、マイ箸づくり、小枝のえんぴつ作り等、木とのふれあいを楽しみ、お昼には無料提供の雑汁に舌鼓を打っていました。

森林交流館で来訪者を歓迎する
モリゾー&キッコロ

また、丸山製材所が開発した少人数で簡単に組立・解体できる、国産材を使用した休憩小屋（今回の展示品はエコエコハウス・BBQバージョン）が展示され来訪者の興味を引いていました。

フェスティバル終了後には、中部森林管理局名古屋事務所長から、「地域の皆さんの役に立つことも国有林の大きな役割。その一環としてこのフェスティバルは大切。来ていただいた皆さんの

方々の笑顔が良かった。」「来年またこの場所でみなさんと一緒に取り組みたいので協力を。」と、関係者にあいさつし終了しました。



展示されたエコecoハウス・BBQバージョン

『木で未来をつくらう！』 長野県シンポジウム

「企画調整課」木材利用ポイントの普及を図るシンポジウム「木で、未来をつくらう！in長野県」（信濃毎日新聞社など主催）が四月二十六日、長野県長野市北石堂町のJ A長野県ビルで開かれ、約一三〇名の方が参加されました。

前半、奥田中部森林管理局長、信州木材認証製品センターの宮崎正毅副理事長及び長野県木材利用課浦井木材普及担当専門職から、森林や木材利用の現状、木材利用ポイント事業などについての講演が行われました。



講演を行う奥田局長

奥田局長からは、木を使うことの大切さ、良さ、地域材利用を進めていくための国の取組などについて講演がありました。毎年増加している日本の森林資源量は木材需要量を上回っており、国内で使う木材は全て国内の森林の伐採でまかなっても維持できると指摘。「木を使い、新しく木を植え、木を育てていくことが、バランスが良く、より多くの二酸化炭素を吸収する森林になっていく。」と訴えました。

宮崎副理事長からは、県産材は高いと思われがちだが、住宅建設費に占める木材費の割合は一割程度と指摘し、「戦後植えたカラマツなどは、今まさに使われるのを待っている。」と実情を話されま

した。

林野庁木材利用課の涌井木材普及担当専門職からは「木材利用ポイント事業」について説明があり、木造住宅の新築、床などの木質化、木製品・木質ペレットストーブ・薪ストーブの購入などにより、地域材の利用に応じて付加されるポイントで地域の農林水産品などの商品に交換でき、地域にも還元されることについてPRしました。

続いて「木材の『地産地消』で信州を元気に」をテーマとして、増田正昭信濃毎日新聞社編集委員をコーディネーターに、奥田局長、宮崎副理事長、久米えみ設計工房CRESS代表、植木達人信州大学農学部教授及び小林新F.M長野アナウンサーの五名によるパネルディスカッションが行われました。

久米代表は「体が冷えやすい方にとって木の熱伝導率が低いことは非常に重要。木が沢山使われている家は長生きできる。」とアピールしました。

木材加工業の取材をしてきた小林アナウンサーは、日頃から森林づくりや山の木をどうすれば使ってもらえるのかを考え、国産材のみを使ったおもちゃや表彰状などを製造販売している企業を紹介し、「木は日常の小さな物から使うことを意識することが消費者にとって大切。」と語りました。

植木教授は「林業だけで考えるのではなく、林業、農業、畜産業などと地域と



パネルディスカッションの様子

が一体となり、補完しあって、農山村の魅力を発信していくことが必要。」と提言しました。このシンポジウムは、全国四十七都道府県で開催され、管内の富山市、岐阜市、名古屋市でも開催されました。

各地からのたより

「戸隠森林植物園」で地元中学生による小鳥の巣箱かけ

【北信署】四月十五日、長野市立戸隠中学校二年生二十六名が、国有林内の戸隠森林植物園で小鳥の巣箱かけを行いました。

た。

この巣箱かけは、同校が「身近な戸隠高原に生息する鳥類に興味を持ち、生態について学ぶ」「自然に親しみながら動植物の保護に関して理解を深める」ことを目的として昭和四十八年から実施している伝統行事で、今年で四十二回目となります。



巣箱かけの様子

巣箱は生徒一人一人の手作りによるものですが、事前に戸隠森林官からこれまでの営巣の状況や巣箱作りのコツ等の授業を受けて作製しました。

巣箱かけは天候にも恵まれ、生徒たち

は少しずつ雪解けが始まった雪面の上を慣れない足取りで、北信森林管理署職員から巣箱を取り付ける高さや方向についてアドバイスを受けて、どの木に掛けようか慎重に考えながら、巣箱かけに適した樹木を選びました。

樹木を選んだ後は、はしごや巣箱を支えるなどお互いに協力しながら樹木に傷を付けないように、巣箱を取り付けました。

また、巣箱かけ終了後には、NPO法人戸隠森林植物園ボランティアの会の羽田収さんから、戸隠における野鳥の種類や生態について説明を受け、小鳥の巣作りに期待を膨らませました。

同植物園は野鳥の宝庫として知られ、百種類以上の野鳥が観察されています。生徒たちが心を込めて設置した巣箱に、今年もかわいらしい小鳥たちがやってきて、生徒だけでなく、同植物園を訪れるたくさんの利用者を楽しませてくれることが期待されます。

「戸隠森林植物園」でボランティアによる歩道整備

【北信署】四月十八日、小雨が降る戸隠森林植物園で、長野林業土木協会東北信支部北信分会会員三十五名が、ボランティア活動による歩道整備を行いました。

この活動は、同会の社会貢献活動の一

環として毎年行われているもので、今回で十回目となりました。

歩道整備は、全長約二キロにわたるバリアフリー歩道の支柱にグリーンロープを張る作業で、冬期間は積雪によるロープや歩道の損傷を防ぐために取り外しをしているため、開園前のこの時期に利用者の転落防止及び踏み荒らしによる湿地帯の植生保護を目的に設置するものです。



残雪の中でのグリーンロープ張り

参加者は、残雪の残る歩道を三班に分かれて北信森林管理署職員の指導のもと、ロープの長さ調節に気を配りながらお互いに声を掛け合い手際よく作業を進め、予定よりも早く作業が終わることができました。



作業に参加された皆さん

戸隠森林植物園の開園に当たっては、ロープ張りが開園準備の重要な作業であり、これまでの同会によるボランティア活動の取り組みが認められ、昨年度末には北信森林管理署から感謝状が贈呈され、今後も継続した取り組みが期待されます。

植物園は、四月二十六日から開園し、昨年よりも残雪が多い中、湿原に現れたミズバショウやリュウキンカは今年も鮮やかな姿を現し、多くの来園者を楽しませてくれます。

「保育園の森林」を紙で再現

【中信署】四月三十日に中信森林管理署において、隣接する松本市堀米保育園の年長・年中児四十二名を招いて森林教室を行いました。

これは、保育園の本年三月の建て替えに伴い、新たに交流を深めようと開催したものです。

園児達は小雨の降る中、雨合羽を着て中信署まで元氣よく歩いてきました。

初めに署オリジナルの「お山のニコニコさん」の紙芝居を上映しました。紙芝居は山の木を伐り過ぎてしまったことで災害が発生し、山を復元するためには何



元氣よく手を上げる園児たち

が必要なのかを問う内容で、職員の語り掛けに熱心に耳をかたむけていました。



森林づくりをする園児

森林の大切さを学んだ園児達は、模造紙に描いた山に、紙で出来た木や自分たちが描いた動物の絵を貼り森林づくりの疑似体験をしました。

続いて、どんぐりを使った工作を行いました。園児達は小さく丸いどんぐりに悪戦苦闘しながら顔を描いたり模様を付けてストラップのお土産作りをしました。

職員との交流も深まり、地域に根付いた森林管理署を園児達を通してPRできたイベントでした。

後日、園児達が手作りの感謝状を持って訪ねてくれ、微笑ましい限りでした。



浄土山展望台から室堂(立山登山の拠点)を望む



「富山署 立山森林事務所」

高橋良二 森林官

立山森林事務所は、富山県南部の富山県中新川郡立山町芦峯寺に位置し、管轄する国有林面積は、約三万五千ヘクタール(立山町約一万六千ヘクタール、富山市約一万九千ヘクタール)。この他、官行造林地として約三百二十ヘクタールを管理しています。

メインとなるのは、富山県東部の長野県と隣接しているブナ坂国有林及び南東部の岐阜県と長野県に隣接する黒部谷割国有林となります。

ブナ坂国有林は、標高五百メートルから三千メートルと標高差が大きく植生も変化に富んでおり、中部山岳国立公園特別保護地区やラムサール条約登録区域等、様々な指定を受けている国有林です。

また、日本百名山に登録された山を多数持ち、登山道や山小屋施設に加え、立山黒部アルペンルートが整備されているため、登山者や観光客が多く訪れます(平成二十五年度アルペンルートの入込者数九十九万一千人)。

このため、七月の海の日より八月二十日までの観光客が多数訪れる時期は、グリーンサポートスタッフを活用した高山植物保護事業を実施します。

活動内容は、カメラ撮影に夢中になり立入禁止区域へ入り込む人への指導、ゴ



グリーンサポートスタッフと(後列右端が高橋森林官)

ミや忘れ物の回収、怪我をした人の救護対応、外来植物の除去作業や高山植物の説明等を行っています。

過去に比べると観光客のマナーが良くなり全体のモラルは向上していますが、ベンチや椅子の下等、見えない場所へゴミを捨てる人や危険な立入禁止区域へ入り込む人もいることから継続して実施していく必要があると考えています。

黒部谷割国有林は、ブナ坂国有林同様の高山帯に位置し、国立公園等に指定されています。当該国有林では、旧登山道の沿線において踏圧や融雪時に積雪が地表面を滑ったり、雨水等による洗掘によって植生が荒廃している箇所があります。

このため、雲ノ平山荘、東京農業大学及び富山森林管理署の三者が協働による植生復元事業を、環境省、富山県、富山市とも連携を図りながら進めています。

事業内容は、荒廃して土壌が見える箇所へ植生マットを敷き詰める作業を実施、植生の回復を模索しているところです。

この他、職員パトロールによる富山県と長野県境の稜線沿いの巡視や、最近ではニホンジカの入り込みが確認されたことから、稜線沿いに監視センサーカメラを設置してニホンジカの観測も実施しています。

当事務所管内における遠隔地での巡視は、登山道を移動し山小屋に宿泊するこ

とから山登りが好きな人にとっては夢のような事務所と思われますが、一歩間違えると遭難や滑落事故を起こす危険性が極めて高い場所でもあります。

これから事業最盛期となりますが、安全対策を確実に実施し、無事故無災害で業務を遂行していきたいと考えています。



植生復元事業(植生マットの設置)

行事・会議等の予定

◎長野県植樹祭

6月7日 長野県諏訪郡富士見町

◎富山県林政協議会

6月10日 富山県富山市

◎事業担当課長会議

6月26日～27日 林野庁



須原宿町並み

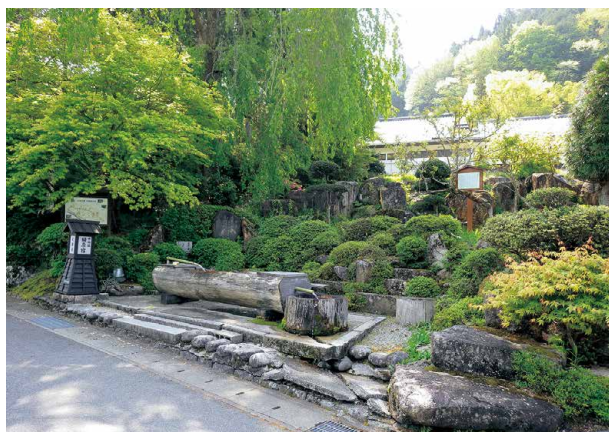
◆水舟の里「須原宿」

中山道三十九番目の宿場「須原宿」は、木曾谷の中では一番古くに栄えた歴史ある宿場町です。宿場の創設は古く戦国時代の頃ともいわれています。宿駅として指定されたのは慶長六年（一六〇二）で、当初は木曾川沿いに町割りされましたが、正徳五年（一七一五）の大洪水により大きな被害を受け、享保二年（一七二七）現在の位置に移築されました。



◆須原宿の町並み

須原駅を出てすぐに正面に、幸田露伴の小説「風流仙」に描かれている「桜の花漬け」を江戸時代末より製作・販売している「大和屋」があります。ここから南に進み宿場の中ほどには島崎藤村の「ある女の生涯」の舞台となった「清水医院跡地」（建物は犬山市「明治村」に移築）や正岡子規の歌碑、江戸時代には



宿場に置かれている「水舟」

須原宿は古くから湧水が豊富で、宿場の中央沿いにはサワラの丸太をくり抜いた「水舟」が所々に置かれ、住民の日々の生活を支え旅人の喉を潤していました。この水舟は上水道の普及により無くなりましたが、昭和六十年に地域住民により再現・保存され、独特の町並み景観を作り出しています。

◆木曾三大寺、最古刹「定勝寺」

宿場町の最も南に位置する「定勝寺」は、木曾三大寺の最古刹であり、本堂、庫裏、山門の三建築が桃山風の豪壮な建築様式として昭和二十七年に国の重要文化財に指定されています。定勝寺には寺宝が多く、木曾義元肖像



桜の花漬



須原長持行列

脇本陣を務める傍ら酒造業を営み中山道の歴史と共に歩んだ、現存する木曾谷最古の酒蔵「西尾酒造」があります。旧須原小学校門を過ぎると、今も飲用することのできる屋根付きの「水舟」があります。ここから宿場はずれまでは、江戸時代の旅籠の様式が色濃く残っています。この地区では、毎年七月十七・十八日に「鹿島神社例祭」が開催され、御神輿や長持ち行列、須原宿に古くから伝わる盆踊りの「須原ばねそ」が地元の方たちにより演じられます。



定勝寺山門

画や香林和尚頂相などが長野県宝に指定されており、書院の千羽鶴の壁画や東洋一の本曾ヒノキダルマ座像も見応えがあります。また、平成四年にこの寺で発見された「番匠作事日記」には天正二年（一五七四）には仏殿を修理した際にそば切りを振る舞ったことが記載されており、これが日本最古のそば切りに関する記録といわれています。

アクセス方法

・公共交通機関 JR中央本線須原駅下車

・自家用車 中央自動車道中津川IC
↳ 国道十九号線経由で約一時間
お問い合わせ

大桑村観光協会 TEL〇二六四一五五一
四五六六